

平成24年度決議

リニア中央新幹線は、東京・名古屋・大阪間の時間距離を大幅に短縮し、地域間の交流・連携を一層強化し、21世紀のわが国の新たな国土の大動脈として、経済社会を支え、ゆとりある生活の実現に大きく貢献するとともに、内陸部における発展を促進する社会基盤であり、また、甚大な被害をもたらした東日本大震災にみられるような大規模災害に強い国土を形成する上でも重要である。

また、環境問題、エネルギー問題においても、優れた特性をもつ大量高速輸送機関として期待されている。

さらに、本県と首都圏・関西圏との交流拡大をもたらすリニア中央新幹線は、整備が進む東海環状自動車道などの高規格幹線道路ネットワークとともに、地域の活性化に大きく寄与する重要な交通基盤であり、その早期実現が望まれるところである。

国家的プロジェクトであるリニア中央新幹線については、JR東海による環境影響評価の手続きが進められ、現在は、環境影響の調査が行われているなど、平成39年の東京・名古屋間のリニア開業に向けた手続きが着実に進められているところであり、早期着工に向け関係者が一体となって推進していく必要がある。

よって、我々は、岐阜県発展の起爆剤として、リニア中央新幹線を戦略的に活用するという方向性のもと、その早期実現と利便性向上に向けて、次の事項について一致協力して、強力な運動を展開するものとする。

- (1) 環境影響評価や、全国新幹線鉄道整備法に基づく「工事实施計画」の申請・認可など、必要な手続きを着実に進め、早期着工を図ること。
- (2) 県内駅は、在来線との乗継利便性を考慮し、在来線既存駅(美乃坂本駅)に併設、若しくは、近接して設置すること。
- (3) ルートの絞り込みにあたっては、環境保全等に配慮するとともに沿線自治体の意向を十分反映すること。
- (4) 県内駅利用者のアクセス利便性を高めるため、県内駅と岐阜・西濃地域や飛騨地域、長野県木曽・松本方面等を結ぶ中央本線など、在来線の所要時間の短縮や列車本数の増加、直通列車の運行などに配慮すること。
特に、高山本線及び太多線については、輸送力強化策を検討し、早期に提示すること。
- (5) リニア中央新幹線の整備工場と車両基地からなる総合車両所の概要を早期に示し、着実に推進すること。
- (6) 県内駅利用者の利便性向上を図るため、停車本数の十分な確保や県内駅と東京間の所要時間の短縮など、ダイヤ編成の考え方を早期に提示すること。
- (7) 事業の円滑な実施に向け、沿線自治体との調整を十分行うとともに、地元企業の受注機会の拡大に配慮するなど、地域の振興につながるよう努めること。

以上決議する。

平成24年4月11日

リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会